

(別紙の2)

自己評価及び外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	朝の申し送りの後、法人の「経営理念・行動指針」の唱和を行い、支援の基本としている。また、だんらんの理念を事業所内に掲示し、折につけ目にすることで、意識付けを促している。	事業所理念と行動指針を玄関・事務所をはじめ、事業所内に掲示し職員全員で共有して、日々の支援に繋がっています。特に朝の引き継ぎで唱和し、敬意ある対応で「心あたまる」支援を展開されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	道路掃除や通学路の雪かき等の協力。散歩に出かけた時には、昔からの知り合いや地域の方と昔話をする事ができた。児童館の子どもの交流が出来た。	近隣にある高校や小学校の通学路に面した事業所になっている為、地域の清掃活動に参加したり、周辺を散歩の際は、顔なじみの方に声をかけてもらったり、児童館と交流を行うなど、積極的な地域交流に努めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	夏ボランティアの受け入れや、認知症サポーター養成講座のコミュニケーション実習、地域の学校や介護士養成学校の施設実習を定期的に受け入れしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている。	おおよそ2ヶ月に1回の開催を行っている。通常はホーム内で行い、コロナ蔓延時は、法人会議室を使用したり、拡大時期は委員に報告文書を送付した。内容は活動の様子を写真で紹介、取り組みや運営状況の報告をした。ご意見や改善のヒントを頂き、運営の参考とした。運営規定・重要事項の変更をするときには、委員会に議題を上げ、承認を得た。	現在もコロナ感染状況を踏まえた会議の開催に努めています。開催できない時は近況報告を送付して状況の伝達に努め、時には法人会議室を利用して開催していました。会議時には、荒れている畑を見て耕作に協力して頂き、じゃがいも掘りを実現したり、入院後の利用者の状態変化に伴い、その後のサービス見直しと一緒に検討する等、援助や関係情報を活かした取り組みが行われていました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進委員として会議に参加していただき、地域包括支援センターとの情報交換や連携を密にし、協力体制を取っている。困難事例では地域包括支援センターに相談しながら対応した。	入居前に一人暮らしをしていた方は、ケアマネージャーをはじめ、町役場の各担当者などから暮らしぶりや財産問題等の問題についても、各専門分野との連携で協力体制を整えた取り組みを実践しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	利用者様の思いを受け止めて、外気浴や散歩の機会を持っている。また、ゆっくり話を伺う時間を取り、安心して過ごして頂けるようコミュニケーションに努めている。	常に身体拘束をしないケアに努め、身体・精神面共に健康維持が図れるような取り組みを心がけています。個々の趣味や興味に沿ったサービスの展開、ゆとりある日々の関わりを展開するなど、ストレスのない暮らしの提供を実践していました。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止研修に参加し、虐待防止についての意識を高めている。事業所内ではチェックリストを用いて自己の言動を振り返る機会を作り、管理者による面談と指導をし、不適切ケアに至らないよう注意している。		

自己 外部	項 目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現在当該制度を利用している入所者様はいないが、成年後見制度について職員会議等で研修する機会を作っている。		
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居申し込みの際にパンフレットを用いた説明をし、できる限り見学して頂けるようにしている。契約の際には重要事項説明書の明示と説明をし、質問の確認をしている。改定の際には説明文書を用意し、口頭での説明も合わせて行った。空床利用短期入所を有効にする場合、ご家族への確認を行った上、短期入所を受け入れた。		
10	(6) ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	年2回の家族会開催を計画、実施した。その内の1回は運営推進委員会と合同開催し、立場の違う視点からの意見を頂けた。運営推進委員会に家族代表者が委員として参加して頂いている。ご家族が来所された折には、職員が積極的に話をすることで運営についてのご意見を吸い上げている。	コロナ感染症対策で家族との交流が制限され、その期間が長く続いた事もあり、昨年からは年に2回の家族会を計画し交流を深めています。インフルエンザの流行もあり、開催出来ない時もあったようですが、秋には運動会と一緒に楽しんでもらえるような計画もあり、利用者情報の収集やご家族からの要望等を聞き取れる場を設けるなど、今後のサービスの向上に努めています。	
11	(7) ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月事業所会議を開催。運営や提案を協議している。評価制度実施や個人面談の機会を持っている。代表者と職員の面談を行ったり、直接話をする機会を設け、意見や提案を言える機会を持っている。	事業所管理者と直接面談できる時間も設けて意見や提案に耳を傾け、毎月の定例会議に上げるなど、一人ひとりの意見を大切に組み込まれています。入居者のニーズを受け、個別対応になる事にも時間を設けて実践に繋げていました。	
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	評価制度の実施により事業所目標に沿い、個人の目標を設定して業務に取り組んでいる。管理者との面談の機会を持ち、向上心を持って働ける職場作りに努めている。事業所異動希望等を書面にて定期確認している。法人のハラスメント窓口を設け相談出来る環境がある。様々な勤務形態にあわせたシフト制を用いている。障害者雇用あり。		
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員の意欲、希望に応じて法人内外での研修参加の機会を持つように努めている。eラーニング・オンライン研修・集合研修と様々な形態での方法で参加。復命を行い、事業所内で共有するようにしている。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	地域ケア会議、地域作り協議体への参加をし、地域のネットワークづくりに参画している。内容に応じ、復命を行い、事業所内で共有するようにしている。		

自己 外部	項 目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	申し込みの際に出来るだけ本人と見学して頂くが、納得しての申し込みであっても、生活環境の変化の中から出てくる様々な不安がある。本人の訴えや要望をじっくり聞く時間を取り、ご家族との連絡、調整により、一つずつ解決を図っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	居宅支援事業所からの情報確認を基にして、ご家族との面談の中で、今までの介護の苦労を労い、ご家族からご本人のこれからの生活に対する思いやご要望を伺い、ご本人の生活歴を参考に支援方針を相談している。入居後の様子をご家族が心配なさらないようにお伝えしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	今までの生活の継続を新しい環境で営めるよう、デイサービスやショートステイ利用時の情報を活用している。入居後に、入居前のケアマネに訪問して頂き、ご本人と話をする機会を持って頂くようお願いしている。 自事業所認知症デイサービス利用の方が入居されるパターンもあるので、それまでの互いの信頼関係を基に支援の継続をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	共同生活の場での家事作業等、本人の思いと力量に合わせて参加して頂き、労いの言葉がけをしている。利用者同士でゆっくり話ができる環境をつくり、暮らしを共にする者同士、思いを分かち合う関係も見られる。趣味や特技など生活の中の余暇活動を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	在宅系のサービス事業所であることを念頭に、ご家族の協力が必要であることを理解して頂けるよう、入居時をお願いしている。緊急を要する体調変化が起きた場合は、ご家族に相談しながら対応をしている。ご家族が対応できない時にはお金がかかることもあるが、施設で対応している。誕生日に思い出つくりの提案をしたり、近況報告のお便りを出し、共に本人を支えて頂くよう関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	外出した際や散歩の途中で、昔からの知人に会い交流が出来た。ご家族の協力を得ながら自宅などに外出できた。	コロナ禍の外出制限解除後も、以前のような積極的な外出は出来ずにいる中、法人主催のオレンジカフェに参加したり、自宅への帰省を行ったり、近所にお住まいの知り合いの方が面会に来てくれる等、馴染みの関係性が途切れぬような支援の継続に努めています。	

自己	外部	項 目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	一人ひとりの相性や思いに配慮しつつ、利用者様同士の支えあいや助言等、同世代の関わりになるよう働きかけ、良い関係づくりに努め、穏やかに生活出来るよう支援している。気が合う利用者様の席を近くにしたり、同じような声がけをする中で、利用者様同士が互いに声がけをして行動を共にしている様子が見られる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	地域密着型サービスなので、利用終了後にご家族様を見かける機会があるその時は、積極的に声を掛け近況を伺うよう努めている。他施設への転居となった場合は、情報の伝達や問い合わせでの連携を図った。利用者様がお亡くなりになった後、お焼香に行っている。使用しなくなった介護用品を寄付して頂いた方もいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常の会話の中や行動から思いや意向を汲み取り、職員間で話し合い支援に繋げている。本人本位の暮らし方を取り入れるよう、その都度検討している。	色々な趣味を見出し、テレビ鑑賞、読書、スクラッチチャートをはじめ、縫製好きな方には雑巾縫いを、花の栽培が好きな方には花の苗を購入して植えたり、コンビニ好きな方と一緒に買い物に出かけたり等々、個々の意向に沿って楽しみに繋げています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居者様の生活歴や暮らし方、サービス利用の経過等をご本人に聞いたり、日常の会話から汲み取ったり、ご家族から伺い把握している。利用事業所やケアマネジャーからの情報収集をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	入居者個々の心身の状態や有する能力、習慣等の把握に努め、ケース記録に残し職員会議等で情報共有している。今までの暮らし方を記録媒体に入力し、施設での暮らしに反映出来るようケアを考えている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	利用者様担当職員を中心に、職場会議の中でケア検討の時間を持っている。訪問看護師や主治医の意見等を確認し、ご家族の意向や協力を頂き介護計画に反映している。介護計画作成後は担当職員とすり合わせをし、完成した物をご家族様にお渡ししながら、話をしている。	入居時に動きの激しい方の対応について、まずは職員全員で見守りを徹底し、それでもトイレに物を流して詰まらせた時は、職員全員で話し合い、困った時はケアマネジャーやご家族に相談しながら介護計画に繋げています。「いらぬ物は何でも流す」という特性に気づき、その後もご本人に向き合った支援を、職員全員で取り組まれていました。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	その日の生活の様子やケアの実践、結果等をケース記録に残し、実践に活用している。ケア記録入力媒体に『ケース記録・申し送り』とし職員との申し送りをしている。それを往診や処方薬の相談等での参考にしている。		

自己	外部	項 目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	それぞれの状況に応じ、通院の付き添いや外出支援、日用品の購入支援を行っている。体操やレクリエーションの提供を行い、生活の活性化を図っている。共用型認知症通所介護、空床利用短期入所を開始し、在宅の方を支える機能を強化した。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域ボランティアに訪問して頂き、歌や季節の話題を楽しむ時間を提供してきた。散歩ボランティアでは心身状態やペースに合わせ、1対1での付き添いの中、外の空気を感じられる支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居時、ご家族にかかりつけ医と受診方法の確認をしている。状況に応じて往診頂いたり、受診支援を代行し、処方薬の受け取りや支払いは基本ご家族にお願いしている。定期的にご家族と外出しながら受診に行かれる方もいる。主治医の変更があった場合は、医療支援が途切れることがないようにしている。	入居時に希望を聞き、かかりつけ医への通院を継続して頂いています。ただ年齢も増してくると通院事態が困難になり、徐々に近隣病院へ移るケースも出てきています。訪問看護ステーション2ヶ所と連携を結び、定期的な訪問サービスを受けて、健康面において安心できる生活を送っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	利用者様個々の対応や気づきを記録に残し訪問看護師に相談して、日々の支援に活かしている。受診の必要や排便調節等の処方薬について、ご家族やかかりつけ医との連携を支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院された場合は、病院関係者と情報交換や退院に向けての相談、カンファレンスに参加し、利用者様、ご家族様の安心に繋げた。施設に戻れるかどうかの判断を病院側と共に行っている。感染対策で、入院中に利用者様との面会は出来ない為、病院関係者と頻繁に連絡を取っている。入院が長引く場合は、ご家族様に空床として居室を利用してよいかの確認を取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所できちんことを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	体調変動や重度化など常時医療が必要な場合など、施設で出来ることと出来ないことを、ご家族に早めの段階で伝え、主治医と連携を取りながら住み替えの提案をしている。困難事例となりそうな場合は、地域包括支援センターに相談している。	現在、看取り希望を受けて取り組まれています。入居の際の契約時に、重症化に伴い住み替えを説明し提案してきていますが、今回ご家族からの希望を聞き、職員をはじめ、医師や看護師、地域包括支援センターとの協力体制で看取りに取り組まれています。	

自己	外部	項 目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	利用者様の急変・事故発生に備え、初期対応の訓練と共にバイタル確認票や救急隊への申し送り書の確認事項を事前記入し、活用している。法人のAED使用研修会に参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	防災訓練の実施と、水害土砂災害等のハザードマップの確認をし、避難所の確認をした。避難訓練では夜間想定訓練を行い、改めてマニュアルの見直しを行なった。代表者、法人本部職員との連携、緊急連絡網の整備、シミュレーション訓練の実施。地区消防分団の方と協同での避難訓練を行った。災害時業務継続計画書の作成と見直し・訓練を行っている。	裏にあるデイサービスセンター奥の林が崩れると、事業所に被害が生じると、地震や水害時等の被害対策を想定しています。年に2回地元消防署や消防団と避難訓練を実施し、事業所内では夜間体制を想定した訓練を行うなど、緊急時に備えた連絡網の訓練や備蓄倉庫の点検確認も行っていました。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	だんらん独自の行動規範を作り掲示、折につけ振り返りの指標としている。来訪者から、あからさまに入居者様の名前が見えないよう、プライバシーの保護に配慮している。虐待チェックリストを定期的に行って集計、フィードバックをしている。	「あせらず、ゆっくり、ぼちぼちと…」と、独自の行動規範を目にしながら、日々の支援に取り組まれています。個々の部屋の名前もご本人が解るように工夫して掲示し、上から目線になりがちな声掛けに注意して、尊重した支援に臨んでいました。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人の思いや希望を伺いつつ、支援の方向付けをしている。見守りの中で、自分でやりたいことをし、過ごしたい場所で過ごされている。個々のしたい趣味活動の支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	本人のペースを大事にし、申し送りや記録の確認をしながら、適宜声掛けをし、無理強いのない支援を心がけている。言葉で言い表せない方については、様子や表情から思いを汲み取り支援するように努めている。個人の趣味活動が出来るような環境作りをしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	簡単な化粧をしている方がいる。また鏡を見て髪や服を整えている姿が見られる。部屋にある服を自分で選び着用されている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	一人ひとりの好みや嚥下の力に合わせた食形態や量で提供している。本人の意欲や力量に合わせた食事の準備や、片づけを手伝って頂いている。コロナ感染予防の為、職員と一緒にテーブルで食事をとることは出来ないが、食事が楽しみになるような会話を心がけている。	法人の給食室から食事が運ばれ、ご飯とみそ汁はホームで調理して提供し、配膳や片付けのできる利用者さんと一緒に行っていました。月に1度はお楽しみ会として、七夕にそうめん、8月には五目寿司、夏らしい冷やし中華等、季節を感じながら楽しめるメニューとなっています。	

自己	外部	項 目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事・水分量共に個人の体調、排便状況、バランスを考慮し、今までの生活習慣にも配慮した支援を心がけている。月1回の体重測定を踏まえ、食事量の検討をしている。水分・食事量・排便状況を個別記録に残し、活用している。排便コントロールを、水分の種類を変えることで行っている方がいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食、個々の力量を活用しながら、歯磨きや義歯の洗浄を実施している。夜間は義歯をお預かりし、消毒している。ご本人の口腔に合わせた用具の使用、仕上げ磨き支援を心がけている。時折口腔内を確認し、必要な時は歯科受診が出来るようご家族に協力をお願いしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	一人ひとりの排泄状況を個別記録に残し、排泄の傾向をとらえ、支援に活用し、声掛け・誘導を行っている。本人の思いや習慣に配慮し、自立心を尊重した支援を心がけている。	夜間だけ、おむつ使用している方は2名おり、日中はほぼ皆さん自立されていますが、隠れてパンツを洗っていたり、パンツにペーパーをはさんでいる様子を職員が共有し、見守りと何気ない声かけ支援を行うように取り組んでいました。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	ラジオ体操や軽体操を取り入れ、水分摂取量や食材料の工夫により、自然排便を第一に支援している。順調な排便が生活状況の安心感につながる方も多く、軟下剤等の調整を医療職と相談している方もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	基本的な入浴予定は決めているが、体調やその日の様子、ご本人の思いなどにより柔軟に変更し、入浴をして頂いている。身体状態や、本人のやり方や体調を考慮した支援をしている。	個々の入浴方法を理解し、日々の状態に対応するなど、誘導方法を工夫したり、入浴剤を入れたりして、楽しんでも入れるような支援に取り組んでいました。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	利用者様個々の生活習慣や体調により、適宜居室で休息をとって頂いている。室温や掛け物、照明に配慮し、安心して休めるよう居室環境を整えている。夕食後、居室でテレビを楽しんでいる方や読書をしている方もいらっしゃる。安眠できるよう薬を服薬されている方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方薬の情報提供書で用法や容量を確認し、服薬支援をしている。誤薬防止の為専用のケースを朝・昼・夕と用意し、薬袋と名前を確認している。苗字、名前共に酷似している方もいるので、ケースの表記を工夫し、誤薬を防ぐ工夫をしている。体調の変化がある場合は訪問看護師や、かかりつけ医の先生に相談し、服薬調整をしている。特に認知症薬については職員が日々目に入る場所に提示している。		

自己	外部	項 目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	入居者様それぞれの生活歴や意欲、力量に応じて家事作業やレクリエーションなどに取り組み、生きる意欲を引き出す支援に努めている。雑巾縫いやスクラッチアート、塗り絵や歌などで気分転換を図り、本人の意向を伺いつつ、取り組みを進めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	散歩、外での洗濯物干し、草取りを取り入れている。何もなくても、外気浴を兼ねて外に出る機会を増やすように心掛けている。個別で買い物や外出支援を行っている。	隣接するデイサービスセンターの軽自動車を借りて、春先には花の苗を買いに、秋には紅葉狩りや長門牧場に出掛けたり、隣り町に出かけてランチを楽しんだりしています。誕生日に外食を計画をするなど、個別外出対応が楽しめるような取り組みに努めています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お小遣いとしてご家族からお預かりし、金庫で管理の上、個々に出納帳をつけている。不足消耗品の購入や季節の衣類など、ご本人と一緒に町内の店舗に出かけ、買い物の楽しみを支援した。ご家族には定期的に出納帳の確認をして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	遠方にいるご家族様からご本人様に贈り物が届いた時には、お礼かたがた電話で話をして頂いている。担当職員と一緒に、写真付年賀状の制作を、その方の能力に応じたやり方で仕上げ、ご家族様に送った。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	生活空間に野の花や花壇の花を飾り、季節を感じて頂けるよう心掛けている。リビングにはタペストリーや利用者様と共に制作した季節の飾り物をしている。室温調整や換気遮光等を行い、温度計で確認しながら居心地の良い空間作りに努めている。	季節を感じてもらえるように、野花を飾ったり、リビングの壁面に飾り物を作成して展示したり、広い廊下にソファを置いて、腰を下ろして休めるようにと、限りある場所を有意義に使えるように工夫して、居心地の良い共有空間を整えていました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い通りに過ごせるような居場所の工夫をしている。	気の合った利用者様同士で過ごせる場所として、ソファを複数箇所設置し、大勢で過ごすスペースと静かに一人になれる場所があり、気分に応じて過ごせる居場所がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご本人やご家族と相談しながら、馴染みの家具や好みの物、ご家族の写真を飾ったり、テレビを置いて自分の部屋として、愛着をもって生活して頂いている。仕上げた塗り絵や、ご家族からの手紙を飾られている方もいらっしゃる。	テレビ鑑賞の好きな方、読書の好きな方、スクラッチアートを楽しむ方など、各部屋は、個々の趣味に応じた部屋となっており、好きな本がベッドの枕元にボロボロになって置いてあり、自分の部屋で自分の時間を楽しんでいる様子が伺えました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	保護の観点から行っていないが、新しく入居された方には表示をし、慣れてきたら表示を外している。いろいろな場所で文字表記をしてあり、読んで理解することで、生活の中の困りごとが出来るだけ自分で理解できるよう工夫をしている。		